

はじめに

今日は、神ご自身が女性についてどう教えておられるかを知るために、聖書を調べていきます。

これは「ジェンダー論」と呼ばれますが、軽視してはいけません。

この考えが、私たちの人間性や性的関心、働きのお機、配偶者との関係、家庭生活、OICでの教会生活と奉仕、ひいては世界中の教会とのかかわり方に影響を与えるからです。

これは、男性にとっても大切な教えです。

男性は、聖書の教えに則って生きる女性から何を期待すべきかを知っておく必要があるからです。

教会における女性の役割については、クリスチャンが世俗的な考えに強く影響を受けているので、これについて神の明確な教えを無視する傾向が多く女性にみられます。

そして、現代文化に則した福音的フェミニストの視点を持っていると主張します。

このテーマはクリスチャンの間で意見が分かれますが、激しい議論がなされるこのテーマについて皆さんが今日、真理を理解し、私の話ではなく神のみことばによって納得されることを願います。

ここOICでは、私たちが神のみことばに従うことが大事です。これはOICの教会規則にも記されています。私たちは、すべてにおいて神の教えに従います。

これまでに、この分野に関する妥協が、クリスチャンの結婚生活の破たんや、現代の教会において指導的役割を担う男性の不足をもたらしました。

世俗社会は、イエス・キリストが女性に関して教えた内容を決して左右しません。

聖書が女性について教えることが、私たちの今知るべきことです。

この議論において何が正しくて何が間違っているかは、イエス・キリストの教えによってわかります。

また、イエスの教えを支持するイエス・キリストの使徒たちの教えによってわかります。

では、最初から始めていきましょう。

マタイ 19 : 3-5

19:3 パリサイ人たちがみもとにやっ来て、イエスを試みて、こう言った。「何か理由があれば、妻を離別することは律法にかなっているでしょうか。」 19:4 イエスは答えて言われた。「創造者は、初めから人を男と女に造って、 19:5 『それゆえ、人は父と母を離れ、その妻と結ばれ、ふたりは一体となる』と言われたのです。それを、あなたがたは読んだことがないのですか。」

パリサイ人による男性に都合のいい離婚の習慣について答えられたとき、イエスは、「初めからそうだったわけではありません。」とおっしゃいました。(マタイ 19 : 8)

イエスは彼らに、創世記に記された創造の話を振り返るようにおっしゃいました。神のみことばに立ち戻るのです。そこで、結婚に関する神のご計画を知ることができるからです。

私たちOICについても同じです。性別についての神のみこころを知りたいなら、イエスの模範に倣わなければなりません。

スティーブン・B・クラークは、「キリストにある男性と女性」という分厚い本を書きました。その一節を引用します。

「パウロをはじめ、その他の新約聖書の著者はイエスの導きに従った。男性と女性の役割に関する新約聖書の重要な個所はほとんど、創世記の1-3章に直接、または間接的に言及している。男性と女性についての新約聖書の教えを理解するには、その教えがアダムとエバの創造と、人類の創造に啓示される神のご計画とを根拠としていることへの理解が不可欠である。」

ですから、最初に創世記に登場する本質的な聖書個所を3つ読みましょう。

これが、女性に関する聖書の教え全体の土台を提供してくれます。

創世記 1 : 26-28

1:26 神は仰せられた。「さあ人を造ろう。われわれのかたちとして、われわれに似せて。彼らが、海の魚、空の鳥、家畜、地のすべてのもの、地をほうすべてのものを支配するように。」 1:27 神は人をご自身のかたちとして創造された。神のかたちとして彼を創造し、男と女とに彼らを創造された。 1:28 神は彼らを祝福された。神は彼らに仰せられた。「生めよ。ふえよ。地を満たせ。地を従えよ。海の魚、空の鳥、地をほうすべての生き物を支配せよ。」

創世記 2: 7-25

2:7 神である【主】は土地のちりで人を形造り、その鼻にいのちの息を吹き込まれた。そこで人は生きものとなった。 2:8 神である【主】は東の方エデンに園を設け、そこに主の形造った人を置かれた。 2:9 神である【主】は、その土地から、見るからに好ましく食べるのに良いすべての木を生えさせた。園の中央には、いのちの木、それから善悪の知識の木を生えさせた。 2:10 一つの川が、この園を潤すため、エデンから出ており、そこから分かれて、四つの源となっていた。 2:11 第一のものの名はピション。それはハビラの全土を巡って流れる。そこには金があった。 2:12 その地の金は、良質で、また、そこにはベドラハとしまめのうもあった。 2:13 第二の川の名はギホン。それはクシュの全土を巡って流れる。 2:14 第三の川の名はティグリス。それはアシュルの東を流れる。第四の川、それはユーフラテスである。 2:15 神である【主】は人を取り、エデンの園に置き、そこを耕させ、またそこを守らせた。 2:16 神である【主】は人に命じて仰せられた。「あなたは、園のどの木からでも思いのまま食べてよい。 2:17 しかし、善悪の知識の木からは取って食べてはならない。それを取って食べる時、あなたは必ず死ぬ。」 2:18 神である【主】は仰せられた。「人が、ひとりであるのは良くない。わたしは彼のために、彼にふさわしい助け手を造ろう。」 2:19 神である【主】は土からあらゆる野の獣と、あらゆる空の鳥を形造り、それにどんな名を彼がつけるかを見るために、人のところに連れて来られた。人が生き物につける名はみな、それがその名となった。 2:20 人はすべての家畜、空の鳥、野のあらゆる獣に名をつけた。しかし人には、ふさわしい助け手が見つからなかった。 2:21 神である【主】は深い眠りをその人に下されたので、彼は眠った。そして、彼のあばら骨の一つを取り、そのところの肉をふさがれた。 2:22 神である【主】は、人から取ったあばら骨をひとりの女に造り上げ、その女を人のところに連れて来られた。 2:23 人は言った。「これこそ、今や、私の骨からの骨、私の肉からの肉。これを女と名づけよう。これは男から取られたのだから。」 2:24 それゆえ男はその父母を離れ、妻と結び合い、ふたりは一体となるのである。 2:25 人とその妻は、ふたりとも裸であったが、互いに恥ずかしいと思わなかった。

創世記 3: 1-9.

3:1 さて、神である【主】が造られたあらゆる野の獣のうちで、蛇が一番狡猾であった。蛇は女に言った。「あなたがたは、園のどんな木からも食べてはならない、と神は、ほんとうに言われたのですか。」 3:2 女は蛇に言った。「私たちは、園にある木の実を食べてよいのです。 3:3 しかし、園の中央にある木の実について、神は、『あなたがたは、それを食べてはならない。それに触れてもいけない。あなたがたが死ぬといけないからだ』と仰せになりました。」 3:4 そこで、蛇は女に言った。「あなたがたは決して死にません。 3:5 あなたがたがそれを食べるその時、あなたがたの目が開け、あなたがたが神のようになり、善悪を知るようになることを神は知っているのです。」 3:6 そこで女が見ると、その木は、まことに食べるのに良く、目に慕わしく、賢くするというその木はいかにも好ましかった。それで女はその実を取って食べ、いっしょにいた夫にも与えたので、夫も食べた。 3:7 このようにして、ふたりの目は開かれ、それで彼らは自分たちが裸であることを知った。そこで、彼らは、いちじくの葉をつづり合わせて、自分たちの腰のおおいを作った。 3:8 そよ風の吹くころ、彼らは園を歩き回られる神である【主】の声を聞いた。それで人とその妻は、神である【主】の御顔を避けて園の木の間身を隠した。 3:9 神である【主】は、人に呼びかけ、彼に仰せられた。「あなたは、どこにいるのか。」これらのみことばは、大切なことを 3 つ教えてくれます。

1. 男性と女性は、等しく神のかたちとして造られた。(創世記 1 : 26-28)

この 26-28 節から、神のみことばによって 4 つの事柄がわかります。

- a) 神は人類を男性と女性に造られました。神は、ふたつの異なる性別を持った人間を造られたのです。神がそうなさったとき、そこには目的がありました。ひとつは、神と私たちの関係に関する霊的真理をご自身の民に教えることです。（後ほど読みます。エペソ 5 : 29-32）
- b) 神は、男性と女性の両者をご自身のかたちとして造られました。これは、神の人類に対するご計画の中で、男性と女性が等しく必要で大切であることを教えてくれます。
- c) 神は男性にも女性にも、増えて、地上を支配するように命じられました。ですから、男性と女性の両方に、神の命令に従ううえでの役割があります。
- d) 神は人類を「人」（注：ヘブル語「アダム」）と名付けられました。神は、一方の性別の名が人類全体を指すようにされたのです。

2. 神は、男性と女性とを同等ではあるが違った存在として造られた。（創世記 2 : 7-25）

イエスと使徒たちは、結婚や男女の役割について教える際、この個所を用いました。創世記 2 章は、このテーマに関する新約聖書の教えを理解する上で欠かせない 6 つの真理を提示しています。

- a) 神は、アダムを中心人物として造られた。
神は、アダムに語りかけ、教えておられます。動物たちはアダムのところに連れてこられ、アダムによって名づけられました。女は、男のために造られました。そして、男が女のことも名づけます。創世記 2 章全体が男であるアダムに焦点を当てています。
- b) 神は、アダムを最初に造られた。
善悪の知識の木から取って食べてはならない、食べると死ぬ、と神がアダムに命じられたのは、エバが造られる前でした。（創世記 2 : 16-17）

テモテ第一 2 : 12-13

2:12 私は、女が教えたり男を支配したりすることを許しません。ただ、静かにしていなさい。 2:13 アダムが初めに造られ、次にエバが造られたからです。

- c) 神は、男から女を造られた。
女の起源は、男です。これは明らかに役割の違いを示します。パウロは、創世記 2 : 22 を用いて、かしらに関する神学を教えました。

コリント第一 11 : 3,7

11:3 しかし、あなたがたに次のことを知っていただきたいのです。すべての男のかしらはキリストであり、女のかしらは男であり、キリストのかしらは神です。

11:7 男はかぶり物を着けるべきではありません。男は神の似姿であり、神の栄光の現れだからです。女は男の栄光の現れです。

- d) 神は、男のために女を造られた。
男のために助け手を造るべきだと決められたのは神です。それは神のお考えでありご計画です。女は、男を補うために造られました。地上を満たし、支配する助けをするためです。そして、愛し合うパートナーとして男とひとつになるためです。これは、聖書における女の役割に関する最初の言及です。女は、男を助けるためにいました。
- e) 神は、女を名付ける権利を男に与えられた。
人や物に名前を付ける人は、その人に名前を付ける権威や権力のある人です。現代なら、親が子に名前を付けるようなものです。これは、男女間においてアダムが特別な権威を有していたことを示します。アダムがエバを初めて見たとき、女と呼びました。（創世記 2 : 23）エバと呼ばれるようになったのは、墮落後です。（創世記 3 : 20）

f) 神は、男性と女性を性質において等しく造られた。(23 節)

女は、アダムのあばら骨から造られたので、アダムの性質を持っています。ですから、神のかたちであるわけです。女は、動物のように劣ってはいません。

3. 罪が人間の性質に入った時、男女間のいさかいが始まった。(創世記 3 : 1-9)

創世記 3 章で、男と女の両方が神に罪を犯したことがわかります。

ふたりは神の命じられたことに背き、「善悪の知識の木」から食べてしまいました。ふたりの不従順とその結果下された裁きが、「墮落」と呼ばれています。

創世記 3 章には、なぜ男性と女性が死ぬまで一生労働し争わなければならないかが説明されています。

「墮落」が男性と女性の関係を悪いものへと変化させたのです。

男性がかしらであるという概念は、創世記 2 章で紹介されていますが、「墮落」がこのかしらという概念を汚しました。この点を理解しておくことが重要です。

ここで、創世記 3 章から 3 つの事柄について考える必要があります。

a) エバの欺き

サタンが最初に男ではなく女を誘惑したのは偶然ではありません。サタンは、ふたつの性別のうち女のほうが巧みな欺きに影響されやすいと気づきました。その通りでした。

13 節で女は、自分がだまされたことを神に認めました。

サタンは、神が特定の木の実を食べてはいけないと言われた内容を攻撃しただけでなく、男と女の関係における神の秩序も攻撃したのです。

b) エバの罰

エバは、犯した罪の結果として、母親と妻というおもな役割において苦しむことになりました。

ふたつめの罰は、夫との関係です。ここで男と女の関係が崩れ、女は挫折を感じます。何かが壊れてしまいました。

c) アダムの罰

神は、アダムの罪のせいで地をのろわれます。彼らは食事を用意するために苦勞しなくてはなりません。アダムはエバとともに、いつか死んで、地に帰ります。

アダムの苦勞は、ふたりの不従順の責任を神がアダムに問われたというかたちで強調されています。

ローマ 5 : 12

5:12 そういうわけで、ちょうどひとりの人によって罪が世界に入り、罪によって死が入り、こうして死が全人類に広がったのと同様に、——それというのも全人類が罪を犯したからです。

最初に罪を犯したのはエバでしたが、アダムがかしらの役割を担う人物だったので、その責任は彼にあったのです。

まとめ

創世記 1-2 章は、男性と女性が等しく神のかたちに造られたことを教えてくれます。また、働きや関係性の役割においては異なる存在であることも教えてくれます。

旧約聖書の残りの部分には、墮落した世界における性別の違いが描かれています。

文脈や不従順、特別な事情で例外は存在しますが、神が任命されたかしらは常に男性です。

とは言え、女性には、神の贖いのご計画の中で大きな役割があります。

では、イエスおよびパウロをはじめとする新約聖書の著者が引用した創世記のおもな 3 つの聖書箇所を学んだので、新約聖書の教えへと進みましょう。

新約聖書の教え

イエス・キリストは、ご自身の教会のために男性の指導者を任命しました。その指導者が、結婚や女性に関わる平等性と役割の違いについて教えました。

1. イエスの教会のための男性の指導者

a) イエスは男性でなければならなかった。

イエスはふたつの性質をお持ちでした。完全に神であり、完全に人間のご性質です。しかし、イエスはひとりでした。ですから、男性か女性のどちらかである必要がありました。

イエスは、人間の男性の性質を帯び、この世に神の娘ではなく神の息子として来られました。聖書の神は、聖書の中でご自身をほぼ例外なく男性としてのみあらわしておられます。

b) イエスは、12人の男性使徒を任命された。

イエス・キリストはその公生涯で、12人の男性を直接訓練し、任命されました。そして、使徒と呼ばれました。(ルカ 6:13)

イエスは、彼らを選ぶ前に父なる神に夜通し祈りをささげられました。

ルカ 6:12-13

6:12 このころ、イエスは祈るために山に行き、神に祈りながら夜を明かされた。 6:13 夜明けになって、弟子たちを呼び寄せ、その中から十二人を選び、彼らに使徒という名をつけられた。

ギリシャ語「アポストロス」は、「遣わされた者」という意味です。

彼らは自分から名乗り出たのではありません。イエスによって、神によって、代表として、神のみことばを教える資格のある教師として選ばれたのです。

使徒たちは聖霊の力によって神のみことばを語ったので、ヨハネは次のように語る事ができました。

ヨハネ第一 4:6

4:6 私たちは神から出た者です。神を知っている者は、私たちの言うことに耳を傾け、神から出ていない者は、私たちの言うことに耳を貸しません。私たちはこれで真理の霊と偽りの霊とを見分けます。

パウロは、異邦人、つまり私たちに遣わされた使徒としてイエスに選ばれました。

彼も男性で、多くの新約聖書の手紙を書いた人物です。

注目すべきなのは、当時の文化にそぐわないかたちで、イエスが女性をほめ、守り、引き上げてくださったことです。

けれどもイエスは、女性の役割と責任に関する神のみことばに決して逆らわれませんでした。

これは注目すべき点です。

2. イエスは、ご自身の使徒をとおして結婚に関する教えを与えられた。

これについて話し始める前に、ひとつお聞きします。

既婚女性を美しくするものはなんでしょう。

さまざまな答えがあるでしょう。年齢、体型、髪型、服装、お化粧品などの外面的な魅力が挙げられたかもしれません。

しかし、既婚女性を美しくしてくれるのは、夫に対する服従だと聖書は教えます。たとえば夫がクリスチャンでなかったとしてもです。

既婚者であってもそうでなくても、神の御目に美しくありたいなら、次の聖書箇所注目してください。

ペテロ第一 3 : 1-7

3:1 同じように、妻たちよ。自分の夫に服従しなさい。たとい、みことばに従わない夫であっても、妻の無言のふるまいによって、神のものとされるようになるためです。**3:2** それは、あなたがたの、神を恐れかしこむ清い生き方を彼らが見るからです。**3:3** あなたがたは、髪を編んだり、金の飾りをつけたり、着物を着飾るような外面的なものでなく、**3:4** むしろ、柔和で穏やかな霊という朽ちることのないものを持つ、心の中の隠れた人がらを飾りにしなさい。これこそ、神の御前に価値あるものです。**3:5** むかし神に望みを置いた敬虔な婦人たちも、このように自分を飾って、夫に従ったのです。**3:6** たとえばサラも、アブラハムを主と呼んで彼に従いました。あなたがたも、どんなことをも恐れなくて善を行えば、サラの子となるのです。**3:7** 同じように、夫たちよ。妻が女性であって、自分よりも弱い器だということをわきまえて妻とともに生活し、いのちの恵みとともに受け継ぐ者として尊敬しなさい。それは、あなたがたの祈りが妨げられないためです。

ペテロの手紙のこの部分のテーマは「服従」です。
クリスチャンでない夫を持つ女性が直面する課題に注目しましょう。

a) 「服従」という単語を理解することが大切である。

なぜそれが大切かと言うと、現代文化において「服従」という言葉を否定的にとらえる傾向があるからです。

「服従しなさい」と訳されたギリシャ語の単語は「ヒュポタッソー」です。

この単語は常に、権威に対する服従の関係を意味します。

ペテロは、自分の言いたいことを伝えるために正しい言葉を選びました。

聖書においてこの単語が用いられている場合は必ず、権威に対する服従に関わっています。

例

イエスは、両親に従われた。(ルカ 2 : 51)

市民は政府に従う。(ローマ 13 : 1)

悪霊が弟子たちに従う。(ルカ 10 : 17)

宇宙がキリストに従う。(コリント第一 15 : 27)

教会がキリストに従う。(エペソ 5 : 24)

目に見えない天空の権威がキリストに従う。(ペテロ第一 3 : 22)

信徒が神に従う。(ヤコブ 4 : 7)

信徒が霊的指導者に従う。(コリント第一 16 : 15-16)

キリストが父なる神に従う。(コリント第一 15 : 28)

しもべが主人に従う。(テトス 2 : 5)

妻が夫に従う。(エペソ 5 : 23)

これらの関係性が覆されることはありません。

しかし、ここに挙げたそれぞれが異なる関係性であることを心得ておく必要があります。

婚姻関係は契約による関係で、ふたりの大人がひとつになります。

そうやって結ばれた中で、ふたりのうちのひとりが愛情をもってもうひとりをリードし、もうひとりは喜んで積極的にリードしてくれる相手を支えます。

創世記 2 章によると、妻の役割は、指導的立場としての夫を肯定することです。

これは、積極的に取り組む役割であり、知恵や社会性、洞察、愛、そして力が必要です。

助け手が積極的かつ肯定的に役割を果たす聖書の例として、ご自身で今週、箴言 31 : 10-31 をお読みください。

b) 聖書的な服従は、女性を美しく魅力的にしてくれる。

ペテロは、妻が夫に服従することが、神の御目に、朽ちることのない真の美しさだと映ると言います。(4-5 節)

ペテロは、女性がおしゃれな服を着たりお化粧をしたりして、きれいにしてはいけな、と言っているではありません。彼が言おうとしているのは、神の御目に美しい女性の霊的な本物の美は、素直に従う心から来るということです。

良い魅力的な妻を探している人は、神のみことばに従う女性を見つけましょう。

c) 聖書的な服従は、聖書の原理に制限される。

夫またはクリスチャン男性は、神のみことばが認めていない事柄について女性に服従を求めすることはできません。

ペテロ第一は服従に焦点を置いています、そこでペテロは、兄弟愛の精神で服従がなされるべきだと語ります。(ペテロ第一 3 : 8-12)

ペテロは、アブラハムの妻サラについて引用し、服従を支持しています。(ペテロ第一 3 : 5-6)

d) 聖書的な服従には、神学的理由がある。

エペソ 5 章には、妻が夫に服従すべき理由が記されています。

エペソ 5 : 22-33

5:22 妻たちよ。あなたがたは、主に従うように、自分の夫に従いなさい。

5:23 なぜなら、キリストは教会のかしらであって、ご自身がそのからだの救い主であられるように、夫は妻のかしらであるからです。

5:24 教会がキリストに従うように、妻も、すべてのことにおいて、夫に従うべきです。

5:25 夫たちよ。キリストが教会を愛し、教会のためにご自身をささげられたように、あなたがたも、自分の妻を愛しなさい。

5:26 キリストがそうされたのは、みことばにより、水の洗いをもって、教会をきよめて聖なるものとするためであり、

5:27 ご自身で、しみや、しわや、そのようなものの何一つない、聖く傷のないものとなった栄光の教会を、ご自分の前に立たせるためです。

5:28 そのように、夫も自分の妻を自分のからだのように愛さなければなりません。自分の妻を愛する者は自分を愛しているのです。

5:29 だれも自分の身を憎んだ者はいません。かえって、これを養い育てます。それはキリストが教会をそうされたのと同じです。

5:30 私たちはキリストのからだの部分だからです。

5:31 「それゆえ、人は父と母を離れ、その妻と結ばれ、ふたりは一体となる。」

5:32 この奥義は偉大です。私は、キリストと教会とをさして言っているのです。

5:33 それはそうとして、あなたがたも、おのおの自分の妻を自分と同様に愛しなさい。妻もまた自分の夫を敬いなさい。

この箇所を要約すると、3つの大切なことを教えています。

1) 夫がかしらである。

聖書は、夫が妻のかしらであるべきだとは書いていません。夫は妻のかしらであると断言しています。

2) 夫がかしらであるのは、キリストが教会のかしらであられることを根拠としている。

夫が家族のかしらであることの根拠は、当時の文化ではありません。神によってご計画され、イエス・キリストによって擁護されたことです。キリストは、教会のかしらです。

3) 妻の服従は、教会の服従を根拠としている。

クリスチャンの結婚において、妻は教会の象徴です。教会は、かしらなるキリストに躊躇せず喜んで従います。そして、夫はキリストの象徴です。キリストは、ご自身を与えてくださる愛に満ちた教会のかしらです。

3. イエス・キリストは、ご自身の使徒たちをとおして、クリスチャン社会における性別間の平等性と役割の違いを教えられた。

- a) ペテロは、服従と理解を教えた。(ペテロ第一 3 : 1-7)
- b) パウロは、服従と愛に満ちたかしら、そしてひとつの新たな結合を教えた。(エペソ 5 : 21-33、コロサイ 3 : 18-19)

4. 教会家族における男性による指導に対する女性の服従

おもな聖書箇所は、テモテ第一 2 : 8-15 です。

テモテ第一 2 : 8-15

2:8 ですから、私は願うのです。男は、怒ったり言い争ったりすることなく、どこでもきよい手を上げて祈るようにしなさい。

2:9 同じように女も、つつましい身なりで、控えめに慎み深く身を飾り、はでな髪の色とか、金や真珠や高価な衣服によってではなく、

2:10 むしろ、神を敬うと言っている女にふさわしく、良い行いを自分の飾りとしなさい。

2:11 女は、静かにして、よく従う心をもって教えを受けなさい。

2:12 私は、女が教えたり男を支配したりすることを許しません。ただ、静かにしていなさい。

2:13 アダムが初めに造られ、次にエバが造られたからです。

2:14 また、アダムは惑わされなかったが、女は惑わされてしまい、あやまちを犯しました。

2:15 しかし、女が慎みをもって、信仰と愛と聖さとを保つなら、子を産むことによって救われます。

この箇所は、すでに数週間前に学びましたので、ここに要約しておきます。

要点は以下のとおりです。

- a) 女性は、教会にふさわしい服装をしなければならない。
- b) 女性が、礼拝の中で教えることは許されない。
- c) 女性は、男性に対して権威を持つてはいけない。

権威についての神の教えに従うために、OIC に与えられた適用は明らかです。

教会役員というシステムを継続し、長老と執事というシステムに移行しないのであれば、役員の会長として男性長老または牧師を常に任命する必要があります。

そうすれば、OIC において長老や牧師の霊的・聖書的権威に関する矛盾が解消されます。

これは、来年の教会総会までに実行することができます。

5. パウロは、女性の役割内での働きについて女性の価値を認めた。

初代教会で女性は牧師や長老として奉仕することはできませんでしたが、クリスチャン社会での奉仕に積極的にかかわっていました。女性たちは、伝道者として奉仕し、パウロをはじめとする多くの宣教師の働きを支えました。

彼女たちは男性とともに働いたのです。

パウロは、ローマ人への手紙のしめくくりで、イエスにある女性の奉仕者たちの名を挙げています。(ローマ 16 : 1-16)

また、ペリピ 4 : 2-3 や使徒 18 : 24-26 では、パウロとともに仕えた女性たちを挙げています。

そして、プリスカとアクラという夫婦で奉仕していた人たちのことも挙げています。

これらの聖書箇所は、奉仕に関わる女性たちにパウロが敬意を払っていたことを示します。

パウロは彼女たちの勇気と一生懸命な働きと愛を褒めています。

彼女たちの価値を認めていたのです。

ここで私たちが理解しなくてはならないのは、これらの女性たちがしていた事柄と、これに類似する働きを現代の教会生活にどう当てはめるかです。

女性が神の教えに従うなら、女性自身が祝福を受けます。また、働きに関わる男性は、女性の助けによって神により良く仕えることができるよう、助けを受けます。

これは、既婚女性、独身女性どちらにも当てはまります。

パウロが最初に挙げているのは、フィベです。

彼女は、ケンクレヤの教会の奉仕者でした。

ここで使われているギリシャ語「ディアークノス」は、執事として正式な役職と、ボランティアの助け手の両方の意味があります。

この女性は、多くの人を助きました。

もしフィベが新約時代の正式な執事であったなら、貧しい人、クリスチャンの未亡人、病人などに仕える慈善の働きに関わっていたでしょう。

もし正式に執事として任命されていなかったのであれば、おもてなし、経済的支援、祈り、証、女性への教え、カウンセリング、訪問など多くのことをしていたでしょう。

ですから、女性に関する神の秩序を妥協することなく、これらの働きを現代に当てはめることが容易にできます。

フィベは裕福で、その財力を使って多くの働きを支えていたと考える注釈者もいます。

私も、献金の働きをしていた女性にお会いしたことがあります。彼女が私に個人的に献金してくださった当時、私は彼女がそのような働きをしていたことは知りませんでした。

しかし、その献金を受け取って3か月後、私はその女性の葬儀に出席しました。そこで、彼女が宣教師協会や困窮したクリスチャンに献金するために、車関係のビジネスをしていたことを知りました。

なんと素晴らしい女性でしょう。このようにイエスに仕えるとは、すばらしい働きです。

フィベは、クリスチャンの愛と奉仕の模範です。昔スコットランドで私がお会いした女性もそうです。

ユウオデヤとストケというふたりの女性にも注目したいと思います。

ピリピ 4 : 2-3

4:2 ユウオデヤに勧め、ストケに勧めます。あなたがたは、主にあって一致してください。

4:3 ほんとうに、真の協力者よ。あなたにも頼みます。彼女たちを助けてやってください。この人たちは、いのちの書に名のしるされているクレメンスや、そのほかの私の同労者たちとともに、福音を広めることで私に協力して戦ったのです。

このふたりの女性は、パウロとともに仕えた働き人です。現代なら、「宣教師」と呼ばれるでしょう。

過去70年間で、独身の宣教師の8割は女性です。

この統計は、純福音的で聖書を重んじる宣教師協会が出したものです。

ですから、世界宣教を支える上で、女性に大きな役割があることがわかります。女性の聖書的な役割は、男性とともに働き、男性を支えることです。使徒パウロを支えた女性たちと同じです。

最後に、注目していただきたい女性は、プリスキラです。

使徒 18 : 24-26

18:24 さて、アレキサンドリヤの生まれで、雄弁なアポロというユダヤ人がエペソに来た。彼は聖書に通じていた。18:25 この人は、主の道の教えを受け、霊に燃えて、イエスのことを正確に語り、また教えていたが、ただヨハネのバプテスマしか知らなかった。18:26 彼は会堂で大胆に話し始めた。それを聞いていたプリスキラとアクラは、彼を招き入れて、神の道をもっと正確に彼に説明した。

プリスキラはアクラの妻で、福音のために夫婦で協力して働いていました。

彼らは福音のメッセージをよく知っており、神の恵みとキリストの十字架上の御業をよく理解していない人たちに正しい教えをすることができました。

夫婦で協力して奉仕できるのは素晴らしいことです。妻は女性と話し、夫は男性と話すことができます。

私も 33 年間神に仕えてきて、妻のウェンディは私を支え、ときにはとても難しい問題を抱える女性たちに対応してくれる、非常に大切な存在です。

ウェンディの助けはとても大きいのですが、私が心から祝福だと感じるのは、ウェンディが 4 人の子育てを最優先に考えてきてくれたことです。これは、聖書に則った彼女の役割です。

ウェンディは、一番下の子どもが 12 歳になるまで、子育ての働きに専念してくれました。

それは、およそ 23 年間の奉仕です。

現在、クリスチャン女性を含む多くの女性は、子育ての責任を他の人に任せて、できるだけ早く仕事に戻ろうとします。なぜでしょう。子どもをひとり育てるとするのは、大変な仕事だからです。

女性が子育ての責任を放棄するのは決して正しくありません。

最大の問題は、子どもの人生における一番の影響力が親ではない第三者になってしまうからです。

親がクリスチャンであれば、そうすることによって、神に従い、クリスチャンのやり方で子育てをする、という機会を逃すこととなります。

過去 50 年間、世界で起こった幼児、児童、若者、大人の問題の多くは、間違った子育てに起因します。まったく子育てをしていなかったという場合もあります。

夫婦の協力関係は素晴らしいですが、子どもがいるなら、妻は子育ての責任をおろそかにしてはいけません。

モーセの場合も、彼が 4-5 歳になるまで育てる責任を実母が持つように神は取り計らわれました。(出エジプト 2 : 1-10)

今日最後にお話ししたいのは、独身女性についてです。

聖書は、既婚女性と独身女性をわけへだてなさいません。

女性が独身のままでいることを選んでも、または、その女性が結婚するよう神が定めておられなくても、聖書に記されている働きに関わることができます。

ただ、独身女性は、男性を心底理解して関わるのはあまり得意でないような気がします。

また、結婚していないことで、男性に対してあまり良い感情を抱いていない女性もいます。

聖霊だけが、独身女性の抱えるそのような課題を乗り越えさせてくださいます。

しかし、独身女性は他の女性と性的な関係を持つてはならないと、聖書ははっきりと教えます。(ローマ 1 : 26)

もちろん、配偶者にならない限り、男性と性的関係を持つのもいけません。

独身でいることは間違っていないし、結婚していても神の望まれることができる女性もいます。

まとめ

1. 初期のクリスチャンが活動した当時、女性は積極的に働きに参加していました。しかし、教会のかしらは男性であるという神の定められた型を破らない方法で、それが行われていました。
2. 女性はおもに、かしらである男性の権威のもと、祈り、人のお世話をし、夫や子供たちを支え、家事スキルを教え、他の女性に聖書の教理を教え、地域教会で奉仕し、積極的に証し、困窮者への慈善活動をしました。
3. 神の御目には、もっとも美しい女性は、女性に関する神の教えに服従する人です。

適用

1. もし OIC の女性教会員が神の教えに従って神に誉れを帰そうとするなら、教会の指導部の構造を変えなくてはなりません。
私たちが信仰によって踏み出し、神のみことばを重んじようとするなら、神は私たちの思いを受け入れてくださると信じます。

女性に関する神の教えは決して人に好かれるものではありません。また、明確に理解されていないこともよくあります。

今日このテーマについて少しはお分かりいただけたことを願います。そして、クリスチャン女性の役割と責任について、知識を得たうえで判断することができるようにと願います。

2. 米国・英国の教会について調べましたが、今日私が皆さんにお話した真理を教える教会では、教会内に女性向けの働きを設立することを勧めています。女性向けの働きでは、女性が女性に聖書を教え、日常生活に聖書の教えを適用する方法を教えます。
これを実現するには、ひとりまたはふたりの女性がしっかり訓練を受けて、聖書を正しく理解し、女性に教えるために解釈できるようになる必要があります。
これは OIC の課題です。神のみことばを他の女性に教え、訓練する賜物のある女性はいませんか。
米国にも英国にもすばらしい講座があります。オンライン上で受講できるものもあるかもしれません。
これに関連して私たちが投資できるとも良い方法があります。それは、女性を訓練できる人を育てるために、費用などあらゆる方法でサポートすることです。

3. 男性向けの適用もあります。
これはとても重要です。過去 35 年余り、多くの教会は苦しんできました。それは、教会を指導するという神に定められた責任を男性が担ってこなかったからです。男性は仕事に忙しくて、教会の働きの多くを女性に任せてきました。
ですから、OIC の働きを強めるためには、教会の指導という神に与えられた役割を男性が果たさなければなりません。
そのためには、何人かの男性が聖書講座を受講する必要があります。聖書の知識を増して、聖書を正しく教えられるようになるためです。
ネット上で受講できる安価で良質な聖書講座もあります。
私自身、約 25 年前に通信講座で聖書の学位を取得しました。これは、インターネットが普及する前のことです。
私はフルタイムで神に仕えながら、4 年間で修了しました。ですから、やればできます。
これは、男性の皆さんへの課題です。
皆さんが OIC の指導責任の役割に関わるよう、神が求めておられます。
指導的な働きのために訓練を受けるよう、神はあなたに呼びかけておられますか。
それなら先延ばしにしないでください。今日から始めましょう。礼拝後、私のところに来てください。一緒に祈りましょう。